

# Made in AKITA

メイドイン アキタ

地元を掘り起す  
仕掛け人

ツバクロ

ツバクロとはツバメの古称。毎年同じ巣にツバメが戻るように、面白そうだから地元に帰ってきたいと思える仕事を作りたいという想いから名付けられた。広告やデザインを手掛ける高橋代表と食品関係全般を担当する谷口さんは小中高校の同級生。

## 地元秋田から“面白いことを”

秋田県の人口が戦後初めて100万人を割った2017年、ふるさとに戻り起業した二人がいる。元広告代理店勤務の高橋拓也代表と元大学助教の谷口知行取締役COOだ。異色のコンビが立ち上げた株式会社ツバクロは、設立2年半ながらお互いの得意分野を活かした仕掛けを次々と展開している。

「秋田県には良いものがたくさんあります。そのひとつが食です。しかしPRが足りていません」と語るのは食品衛生管理者の資格を持つ谷口さん。前職では癌予防食品について医学研究を行っていたこともあり、「食」に対して強い情熱を持つ。

「生産者の皆さんは、良いものを作ろうと365日できる限りの手間をかけています。商品PRや販路拡大のために多くの時間は割けません。今は誰もが知っている商品でも、このままでは将来の子どもたちの世代には残っていないかもしれない。それを危惧しています」。

博士課程から県外に出たため人脈はほとんどなかったが、“生まれ育ててくれた故郷、秋田に恩返しをしたい”という想いから、同社企画の商品開発セミナーを主催。参加してくれた意欲ある人たちの話を聞き、秋田の優れた商品を多くの人たちや次の世代へと繋ぐため、何が出来るのかを模索した。

## 未来へ繋げていくために

同社が手掛ける案件では、丁寧にブランドコンセプトと販売戦略が描き出されている。例えば、活性化センターの『あきた農工商応援ファンド事業』を活用し、地元の小松谷果樹園と共に開発したブランド「いっしょにフルーツ」(写真上)。“子供たちのために作っている”という生産者の想いを具現化するべく「フルーツでつながる子供との時間」をテーマとし、親子と一緒に調理できる商品など、家族で分かち合うおいしい・楽しい時間や思い出づくりにつながる商品を提案している。また、“良いものだからこそ適正な価格で勝負する”と、生産者だけでなくその先の小売りまで全員が正当な対価を受け取れることも重視する。



高橋代表と共に仕事を進めることも。

「挑戦したいという気持ちをかたちにするためのお手伝いをしたいんです。例えば、小規模の事業者単体だけではできないことも、連携することで出来るようになることがあるかもしれない。これからも秋田の魅力を発信して、未来へ繋げていければと思っています」。



取締役COO  
谷口 知行  
Tomoyuki Taniguchi, Ph.D.

### 株式会社ツバクロ

〒013-0105  
秋田県横手市平鹿町浅舞字諏訪野120-1  
<http://tbkr.co.jp/>

### 会社概要

商品企画コンサルティング/パッケージデザイン/販売促進

